

2025年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2024年 11月 11日
株式会社クレハ

I. 2025年3月期

I -(1) 業績のポイントと主要項目	(3) ～ (9)
I -(2) 2025年3月期 第2四半期業績	(10) ～ (17)
I -(3) 2025年3月期 業績予想	(18) ～ (27)

II. 中長期経営計画の進捗

・ 2025年度業績目標に向けた取り組み	(29)
・ 新製品・新規事業開発	(30) ～ (31)
・ 環境負荷低減の進捗	(32)
・ 会社と社員の共生	(33)

Ⅰ．2025年3月期

I . 2025年3月期

I -(1) 業績のポイントと主要項目

I -(2) 2025年3月期 第2四半期業績

I -(3) 2025年3月期 業績予想

業績のポイント（1）

株式会社クレハ

2025年3月期 第2四半期実績

売上・利益推移

（単位：億円）

	25/3 2Q	24/3 2Q	差異	25/3 2Q 当初予想	差異
機能製品	285	340	-55	340	-55
化学製品	162	171	-9	155	7
樹脂製品	228	234	-6	210	18
建設関連	53	54	-0	65	-12
その他関連	88	86	2	80	8
セグメント別売上収益	816	885	-68	850	-34
機能製品	12	28	-17	34	-22
化学製品	7	8	-1	6	1
樹脂製品	40	43	-4	22	18
建設関連	4	2	2	4	0
その他関連	12	11	1	4	8
セグメント別営業利益	75	92	-17	70	5
全社調整	-5	-0	-5	-5	0
営業利益	70	91	-22	65	5
当期利益※	57	68	-11	50	7

※ 親会社の所有者に帰属する中間利益

前年同期比の主な差異要因

- ・欧州を中心にEV市場が想定を大幅に下回ったことおよび顧客の在庫調整により、LiBバインダー向けのPVDFが減収・減益。
- ・家庭用品は、販売数量が減少し、減収・減益。
- ・PPS持分法利益の改善により、PPSは減収・増益。

当初予想比の主な差異要因

- ・上記の理由でPVDFが下振れ。
- ・熱収縮多層フィルム (ML)の終売に伴う売上が発生し、上振れ。
- ・環境事業での産業廃棄物処理の増加により上振れ。

為替レート

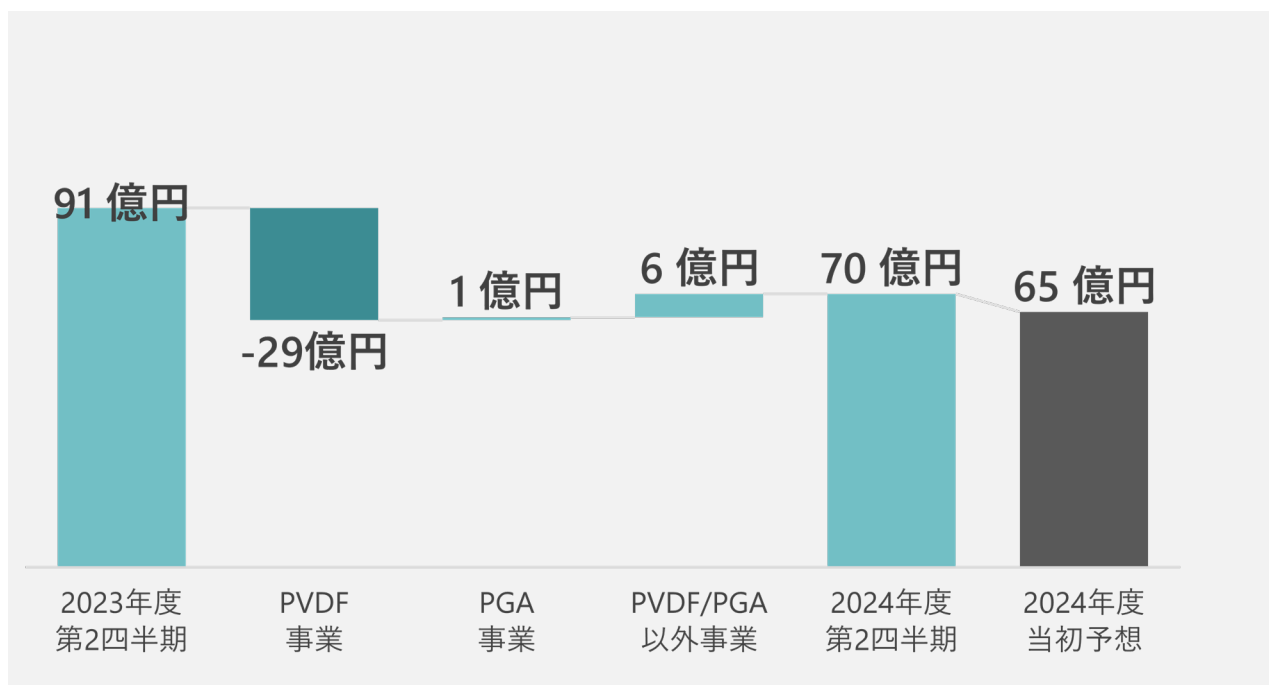
	2024/3 上期実績	2025/3 上期実績
(円/ドル)	141.1	152.8
(円/ユーロ)	153.5	166.1
(円/元)	19.8	21.2

KUREHA

< 営業利益増減要因分析：2025年3月期 第2四半期業績 >

EV市場の低迷によりPVDF事業は大幅減益も
その他の既存事業は概ね前年比で同水準の利益

前年同期比



業績のポイント (3)

株式会社クレハ

2025年3月期 通期予想

売上・利益推移

(単位：億円)

	25/3	24/3		25/3	
	今回予想	実績	差異	当初予想	差異
機能製品	570	645	-75	700	-130
化学製品	300	339	-39	290	10
樹脂製品	400	473	-73	400	-
建設関連	150	139	11	145	5
その他関連	180	182	-2	165	15
セグメント別売上収益	1,600	1,780	-180	1,700	-100
機能製品	-5	48	-53	57	-62
化学製品	9	17	-8	10	-1
樹脂製品	60	82	-22	52	8
建設関連	10	15	-5	8	2
その他関連	21	25	-4	13	8
セグメント別営業利益	95	186	-91	140	-45
全社調整	5	-58	63	-	5
営業利益	100	128	-28	140	-40
当期利益※	70	97	-27	100	-30

※ 親会社の所有者に帰属する当期利益

EPS	134.02	173.03	191.45
ROE	3.3%	4.5%	4.6%

今回予想と前期実績の主な差異要因

- ・ 欧州を中心としたEV市場の市況悪化によるPVDFの減収、シェールガス掘削市場停滞によりPGAの棚卸資産再評価による戻り益が減少。また、農薬顧客の在庫調整、家庭用品の競争激化、ML事業撤退による影響などがあり、セグメント別の営業利益計は91億円の減益。昨年の全社調整△58億円（中国PVDF製造設備増強計画中止、MLフィルム事業撤退費用等）がなく、営業利益は28億円の減益に留まる見通し。

今回予想と当初予想の主な差異要因

- ・ 今期中は市況回復に至らないPVDF、シェールガス価格低迷の影響を受けるPGAを中心に、機能樹脂が下振れ。

為替レート・感応度

為替レート	2024/3	2025/3		
	通期実績	当初予想	上期実績	下期予想
(円/ドル)	144.6	145.0	152.8	150.0
(円/ユーロ)	156.8	158.0	166.1	163.0
(円/元)	20.1	20.0	21.2	21.0

為替感応度（営業利益・半期）

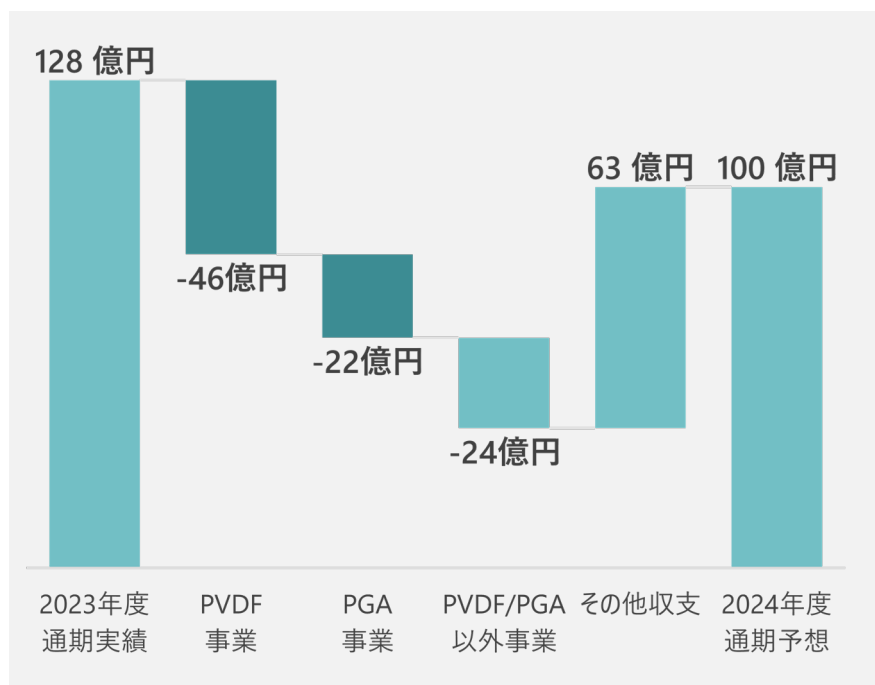
- 1ドル 1円の円安で、0.7億円プラス
- 1ユーロ1円の円安で、0.1億円マイナス
- 1元 1円の円安で、0.5億円プラス

KUREHA

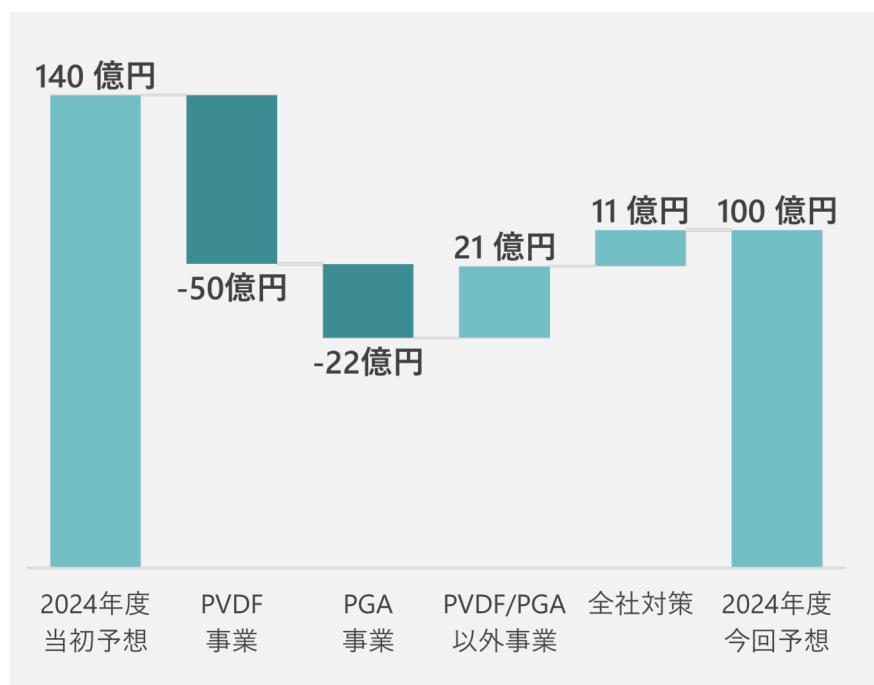
< 営業利益増減要因分析：2025年3月期 業績予想 >

PVDF事業およびPGA事業の未達を
その他の既存事業の徹底的な利益確保ならびに全社での一層のコスト削減により、
利益基盤の底上げを図る

前年同期比



当初予想比

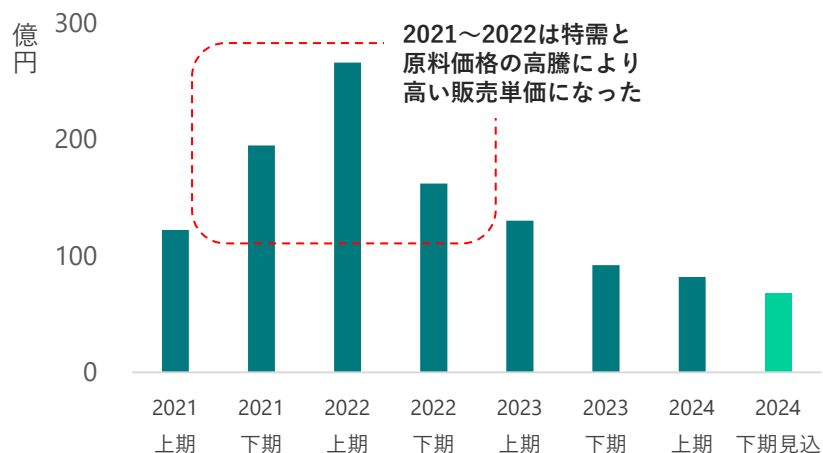


<EV・LiB市場>

当初予想 : 2025年度中に回復

現在の見立て : 2025年度も不透明な状況が継続
欧州市場の回復は2026年度に持ち越し

<PVDF売上収益>



EV市場の低迷による販売減により、
拡販施策は実行するものの今期は赤字の見通し

<概況・施策>

LiB用途

欧州

・EV販売台数は、前年割れの状況。急激な回復は見込めず、想定を下回る状況が継続する見通し。

北米

・EV市場の成長率は鈍化しているが、足元ではPHEVの販売が増加しており、今後はBEV・PHEV・HEVいずれも着実に市場拡大していくと見込む。

・既存顧客の新工場立ち上げが遅れているが、稼働に向けたサンプル要請に対応するなど、生産開始への準備が進んでいる。

中国

・LFP系LiBに対して、当社日・中R&Dセンターによる開発品の提案を行い、一部のLiBメーカーでサンプル評価が進んでいる。欧州市場の低迷を補うべく、中国市場での開発品の早期採用・拡販を実現する。

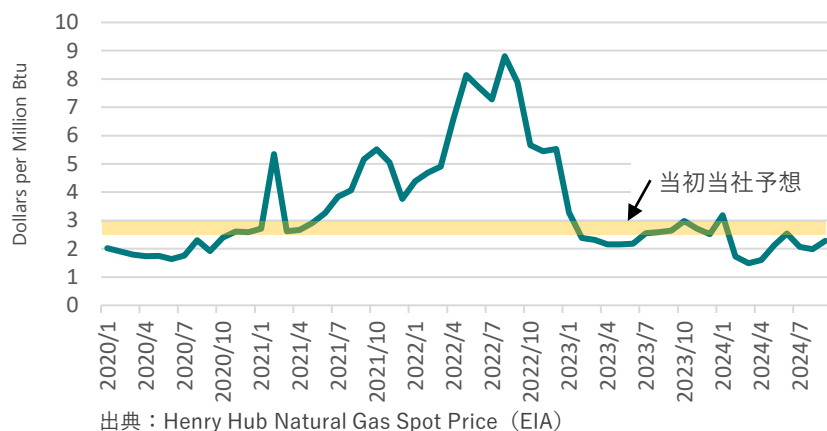
日本

・日系LiBメーカーは、地政学リスクを考慮し、国内でのサプライチェーン構築を重視。各社への提案活動を強化している。

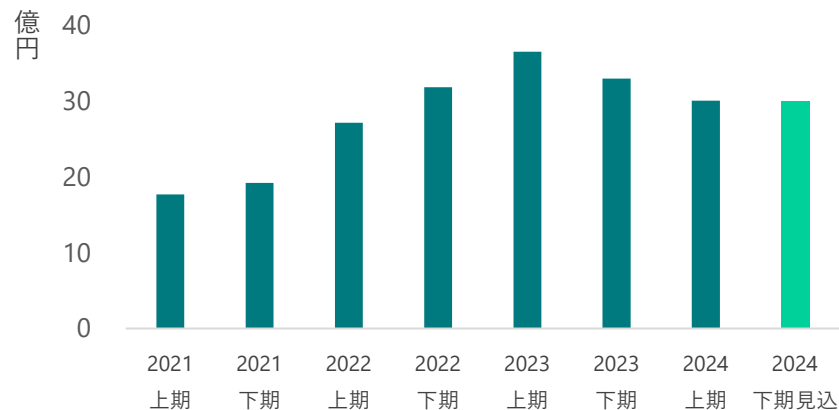
工業用途

・更なる拡販を目指し、石油掘削時に用いられる工業用パイプ、半導体製造装置などに使われる接手・パイプ、水処理膜用途向けにマーケティングを実施している。

<マーケット(ガス価格)>



<売上収益>



<概況・施策>

中高温地区向け

- ・北米シェールガス価格が当社想定2.5～3USD/mmBtuを下回ったことにより、当社の主な市場のひとつであるシェールガス鉱区での掘削活動が停滞した。今後EIA*が見込む天然ガス価格の改善に合わせて市場環境は徐々に改善していく見通し。
- ・当社製品の認知度向上が進んでおり、市場回復期には、拡販が期待できる。

低温・超低温地区向け

- ・これまで開発を進めていた低温・超低温井戸用のプラグ2種類についてそれぞれ、以下の進展があった。
- (低温プラグ) フィールドテストが、7社にて完了。複数社からリピートオーダーを受領し、本格的な販売を開始。中温鉱区でのフルボア採用（坑井全体）および低温鉱区での拡販を進める。
- (超低温プラグ) 樹脂処方に目途がつき、今期中に試作品を完成させ、来期早々に超低温鉱区でのフィールドテスト実施を見込む。

今後低温プラグの本格販売を開始していくが、当初計画と比べて販売が低迷し、棚卸資産再評価による戻り益が減少することで今期は赤字の見通し

I . 2025年3月期

I -(1) 業績のポイントと主要項目

I -(2) 2025年3月期 第2四半期業績

I -(3) 2025年3月期 業績予想

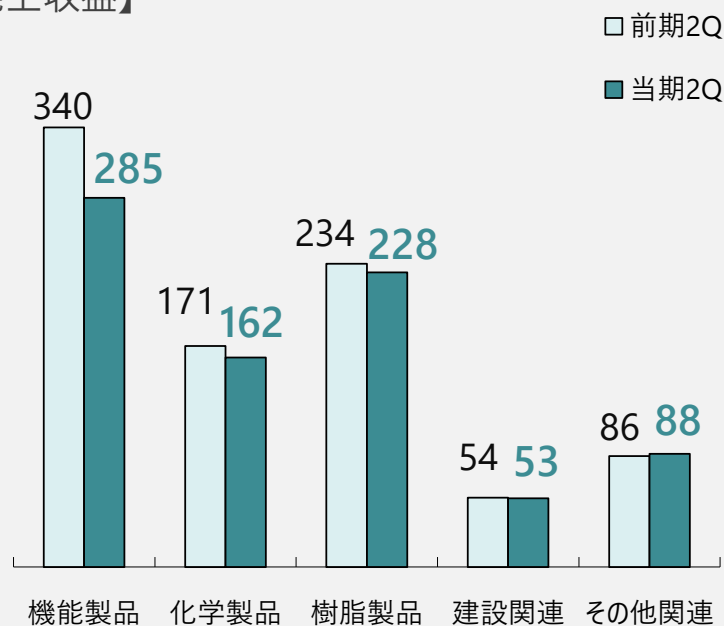
2025年3月期 第2四半期決算の概要

株式会社クレハ

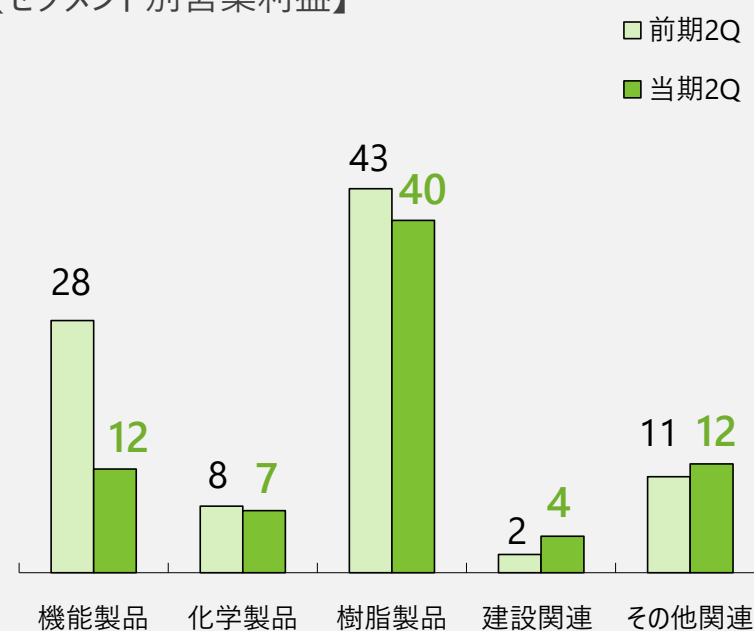
<セグメント別 第2四半期 前年同期比較>

(単位：億円)

【売上収益】



【セグメント別営業利益】



【機能製品】セグメント別 連結業績

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 2Q	2024年 3月期 2Q	増減 金額	率
機能樹脂	185	250	-64	-26%
炭素製品	38	39	-1	-2%
その他	62	51	10	20%
売上収益	285	340	-55	-16%
営業利益	12	28	-17	-59%

< 前年同期比 > 減収・減益

機能樹脂

PPS持分法利益の増加があるものの、EV市場停滞および顧客の在庫調整から車載用LiBバインダー向けPVDFの売上収益が減少し、あわせて減収・減益。

炭素製品

球状活性炭の売上収益は増加したものの、高温炉用断熱材向け炭素繊維の売上収益が減少し、あわせて売上収益前年同期並み・減益。

【化学製品】セグメント別 連結業績

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 2Q	2024年 3月期 2Q	増減 金額	率
農薬	44	49	-5	-10%
医薬品	12	17	-5	-28%
工業薬品	50	58	-9	-15%
その他	56	46	9	20%
売上収益	162	171	-9	-5%
営業利益	7	8	-1	-7%

< 前年同期比 > 減収・減益

農薬・医薬品

農業・園芸用殺菌剤および医薬品の売上収益が減少したものの、原材料価格の下落などにより、あわせて減収・増益。

工業薬品

無機および有機薬品類の売上収益が減少し、減収・減益。

【樹脂製品】セグメント別 連結業績

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 2Q	2024年 3月期 2Q	増減 金額	率
家庭用品	112	122	-11	-9%
釣糸	27	25	2	8%
業務用包材	70	70	0	1%
その他	19	17	2	9%
売上収益	228	234	-6	-3%
営業利益	40	43	-4	-8%

< 前年同期比 > 減収・減益

家庭用品・釣糸

釣り糸の売上収益が増加したものの、家庭用ラップの販売数量が減少したことから、あわせて減収・減益。

業務用包材

1QでMLが終売となったものの、終売に伴う在庫処分売上収益があり、4～9月では売上収益・利益ともに前年同期並み。

【建設・その他】セグメント別 連結業績

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年	2024年	増減	
	3月期	3月期	金額	率
	2Q	2Q		

【建設関連】

売上収益	53	54	-0	-1%
営業利益	4	2	2	99%

【その他関連】

環境事業	56	54	2	3%
運送事業	8	8	-0	-3%
病院事業	22	21	2	8%
その他	2	3	-1	-43%
売上収益	88	86	2	2%
営業利益	12	11	1	13%

< 前年同期比 >

建設関連 売上収益前年同期並み・増益

売上収益は前年同期並み・営業利益は増加。

その他関連 増収・増益

環境事業は、産業廃棄物処分の増加により増収・増益。

その他の事業は、売上収益、利益ともに前年同期並み。

財政状態計算書

株式会社クレハ

資産

	2024年 9月末	2024年 3月末	増減
現金・現金同等物	303	231	72
営業・その他債権	276	406	-130 ※1
棚卸資産	493	512	-20
その他流動資産	56	49	7
流動資産 計	1,128	1,199	-71
有形固定資産	1,521	1,405	116 ※2
無形固定資産	53	50	3
投資等	649	652	-2
非流動資産 計	2,223	2,107	116
資産 合計	3,351	3,306	45

負債及び資本

(単位：億円)

	2024年 9月末	2024年 3月末	増減
営業・その他債務	175	205	-30
有利子負債	697	549	148 ※3
引当金	90	113	-22
その他負債	213	208	4
負債 計	1,174	1,075	99
資本金	182	182	-
資本剰余金	147	147	-
自己株式	-82	-96	15 ※4
利益剰余金	1,721	1,773	-52 ※5
その他の資本	191	208	-17
非支配株主持分	18	18	0
資本 計	2,177	2,231	-55
負債・資本 合計	3,351	3,306	45

※1 … 大口顧客の債権回収が進んだため

※2 … いわきPVDF増強建設仮勘定+132 他

※3 … 社債+200 他

※4 … 自己株式消却+87、自己株式取得△73 他

※5 … 自己株式消却△87（資本剰余金振替後消却）、当期利益+57、配当△24 他

KUREHA

(単位:億円)

	2025年 3月期 2Q	2024年 3月期 2Q	増減
税引前四半期利益	74	99	-24
減価償却費および償却費	64	57	7
その他	103	-83	186
営業キャッシュフロー	241	72	169
投資キャッシュフロー	-208	-76	-132
フリーキャッシュフロー	33	-3	36
財務キャッシュフロー	44	-34	78
現金及び現金同等物に係る換算差額	-5	14	-19
現金及び現金同等物の増減額	72	-23	95
現金及び現金同等物の期首残高	231	322	-91
現金及び現金同等物の期末残高	303	299	5

主な増減要因

営業CF+169億円
運転資金の改善+177

投資CF△132億円
設備投資による支出△200

財務CF+78億円
有利子負債による調達増加+83

I . 2025年3月期

I -(1) 業績のポイントと主要項目

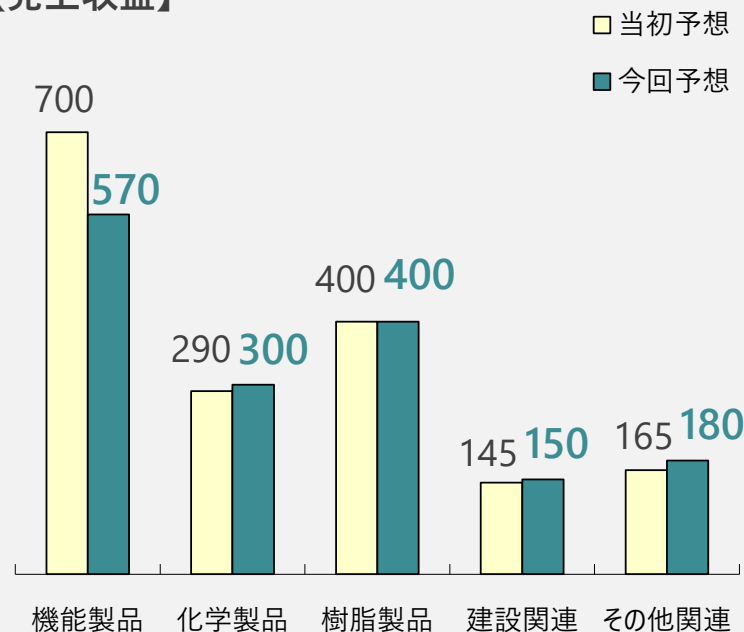
I -(2) 2025年3月期 第2四半期業績

I -(3) 2025年3月期 業績予想

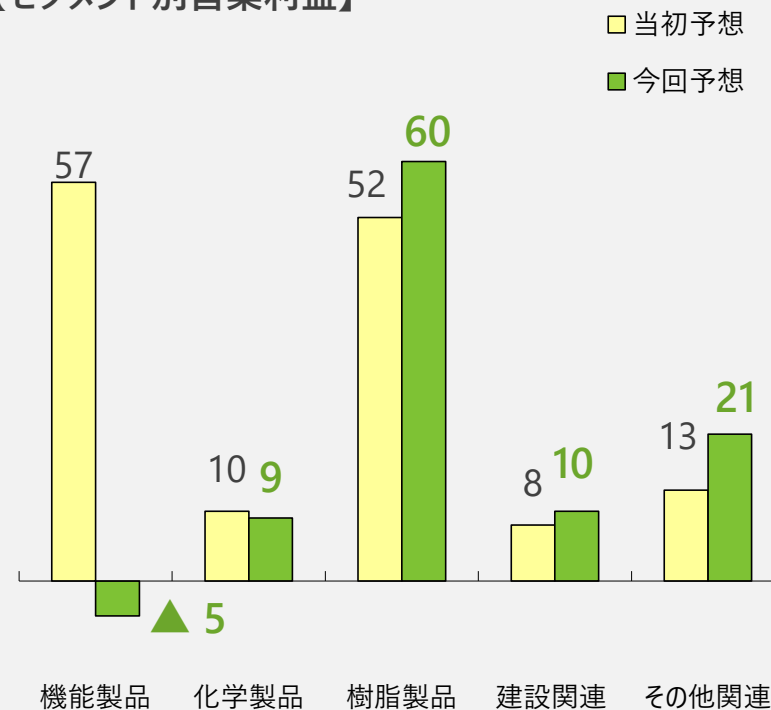
<セグメント別 当初予想比較>

(単位：億円)

【売上収益】



【セグメント別営業利益】



【機能製品】セグメント別業績予想

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 今回予想	2024年 3月期 実績	対前年		2025年 3月期 当初予想	対当初予想	
			金額	率		金額	率
機能樹脂	360	450	-90	-20%	500	-140	-28%
炭素製品	80	79	1	1%	75	5	7%
その他	130	116	14	12%	125	5	4%
売上収益	570	645	-75	-12%	700	-130	-19%
営業利益	-5	48	-53	-	57	-62	-

<前期比> 売上収益 ↓ 営業利益 ↓

機能樹脂

下期もEV市場環境に大きな変化はなく、車載用LiBバインダー向けPVDFの販売は通期でも減少。

PGA樹脂加工品は既存顧客（高温地区）の掘削活動の停滞および棚卸資産再評価による戻り益が減少し、減収・減益。

機能樹脂は減収、去年の営業利益から営業損失に。

<当初予想比> 売上収益 ↓ 営業利益 ↓

- ・PVDFは、当初EV・LiB市場が回復すると見込んだが、市場停滞、顧客の在庫調整が続き、稼働の低下もあり、下振れ。
- ・PGAは、市場シェアは維持しているものの、シェールガス価格低迷により掘削市場が低調に推移。販売本数の低下により棚卸資産再評価による戻り益は大幅に減少し、2025年度の計上にずれ込む見通し。

KUREHA

【化学製品】セグメント別 業績予想

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 今回予想	2024年 3月期 実績	対前年		2025年 3月期 当初予想	対当初予想	
			金額	率		金額	率
農薬	70	97	-27	-28%	65	5	8%
医薬品	30	40	-10	-26%	35	-5	-14%
工業薬品	100	107	-7	-7%	105	-5	-5%
その他	100	95	5	5%	85	15	18%
売上収益	300	339	-39	-12%	290	10	3%
営業利益	9	17	-8	-46%	10	-1	-10%

< 前期比 > 売上収益 ↓ 営業利益 ↓

農薬・医薬品

農薬は顧客の在庫調整により減少、医薬品は薬価改定（価格低下）と数量減があり、減収・減益。

工業薬品

無機・有機薬品の売上収益が減少し、減益。

< 当初予想比 > 売上収益 ↑ 営業利益 ↓

- ・グループ会社の販売が好調となるも、工業薬品の市況下落などがあり、営業利益下振れ。

KUREHA

【樹脂製品】セグメント別 業績予想

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 今回予想	2024年 3月期 実績	対前年		2025年 3月期 当初予想	対当初予想	
			金額	率		金額	率
家庭用品	220	232	-12	-5%	235	-15	-6%
釣糸	50	51	-1	-2%	55	-5	-9%
業務用包材	90	154	-64	-41%	75	15	20%
その他	40	36	4	10%	35	5	14%
売上収益	400	473	-73	-15%	400	-	0%
営業利益	60	82	-22	-27%	52	8	15%

< 前期比 > 売上収益 ↓ 営業利益 ↓

家庭用品

家庭用品は下期販促企画実施等で挽回を図るも、競争激化により、減収・減益。

業務用包材

ML事業の撤退により減収、減益。

< 当初予想比 > 売上収益 ➡ 営業利益 ↑

- ・家庭用品が数量減となるも、ML撤退前の販売増、その他の樹脂加工品が想定を上回り、売上収益は当初予想並み、利益上振れ。

【建設・その他】セグメント別 業績予想

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2025年 3月期 今回予想	2024年 3月期 実績	対前年		2025年 3月期 当初予想	対当初予想	
			金額	率		金額	率

【建設関連】

売上収益	150	139	11	8%	145	5	3%
営業利益	10	15	-5	-32%	8	2	25%

【その他関連】

環境事業	110	118	-8	-7%	100	10	10%
運送事業	15	16	-1	-8%	15	-	0%
病院事業	50	43	7	17%	45	5	11%
その他	5	5	-0	-4%	5	-	0%
売上収益	180	182	-2	-1%	165	15	9%
営業利益	21	25	-4	-15%	13	8	62%

<前期比>

建設関連 売上収益↑ 営業利益↓
土木工事の売上収益が増加するも、工事案件の構成比により増収・減益。

その他関連 売上収益↓ 営業利益↓
環境事業は低濃度PCB処理の大口案件がなくなり減収・減益。

<当初予想比>

建設関連 売上収益↑ 営業利益↑
受注増加により売上収益・利益上振れ。

その他関連 売上収益↑ 営業利益↑
環境事業は通常廃棄物の増加により、売上収益・利益上振れ。

KUREHA

(単位:億円)

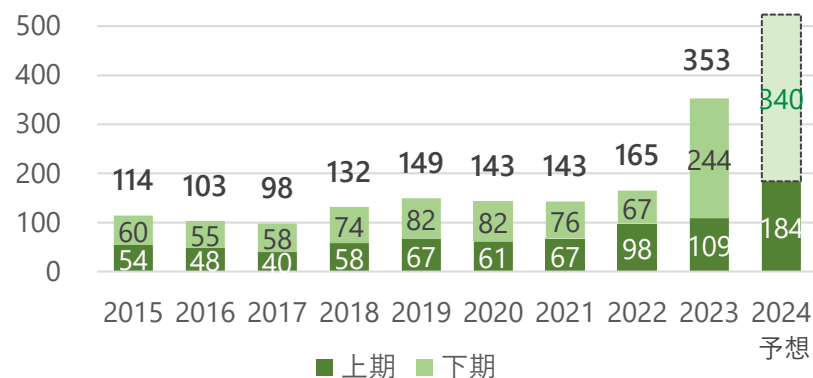
	2025年 3月期 予想	2024年 3月期 実績	増減
税引前当期利益	105	139	△34
減価償却費および償却費	124	117	8
その他	74	△140	214
営業キャッシュフロー	303	116	187
投資キャッシュフロー	△477 ※	△343	△134
フリーキャッシュフロー	△174	△227	53
財務キャッシュフロー	147	121	25
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	0	15	△14
現金及び現金同等物の増減額	△27	△91	64
現金及び現金同等物の期首残高	231	322	△91
現金及び現金同等物の期末残高	204	231	△27

※ …いわき事業所における
PVDF増設投資当期分
364億円を含む

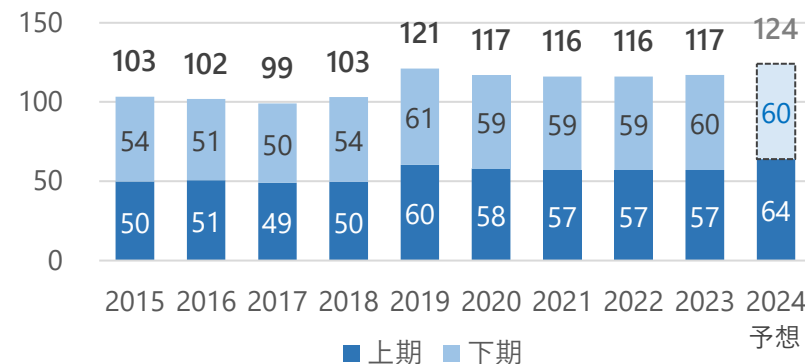
主要指標（1）

株式会社クレハ

設備投資



減価償却費 (単位：億円)



研究開発費

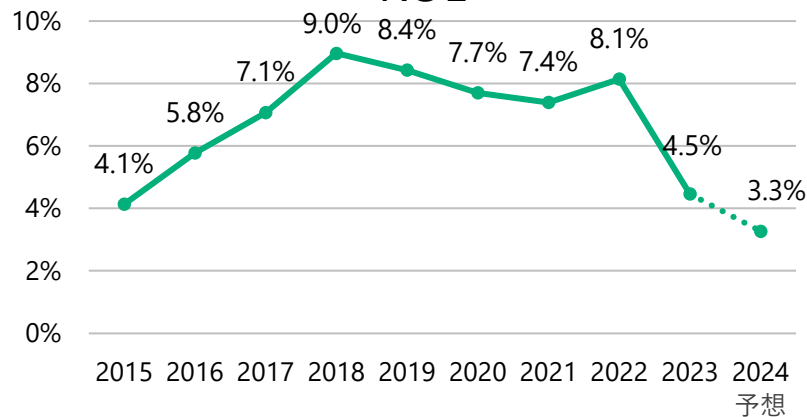


KUREHA

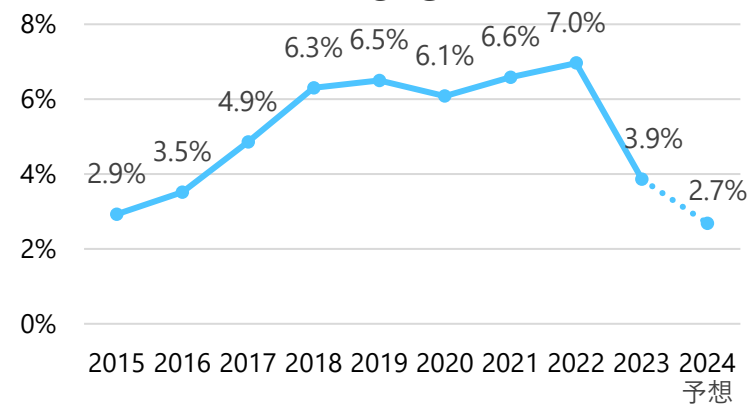
主要指標 (2)

株式会社クレハ

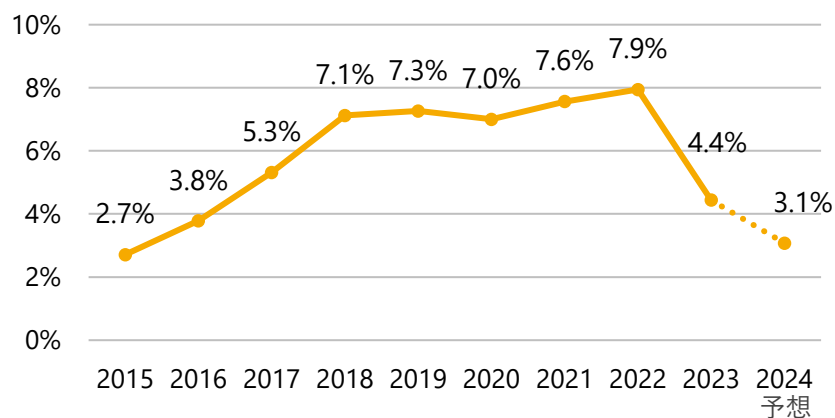
ROE



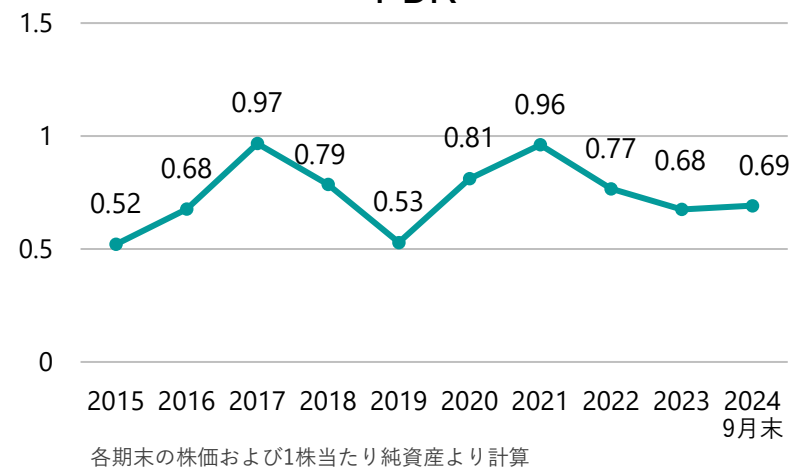
ROIC



ROA



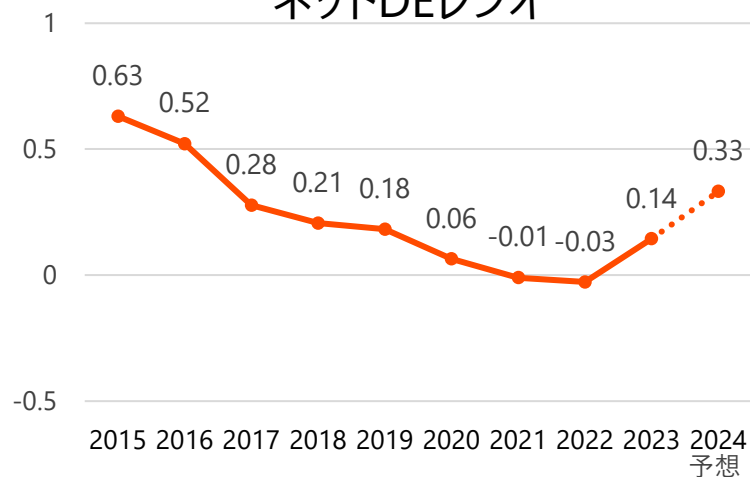
PBR



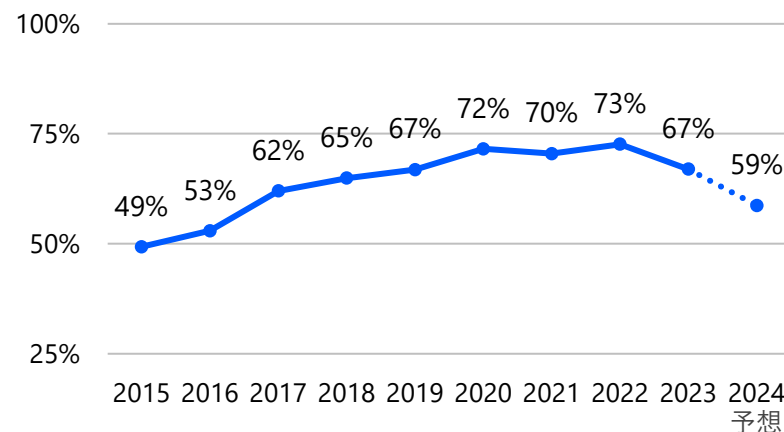
主要指標 (3)

株式会社クレハ

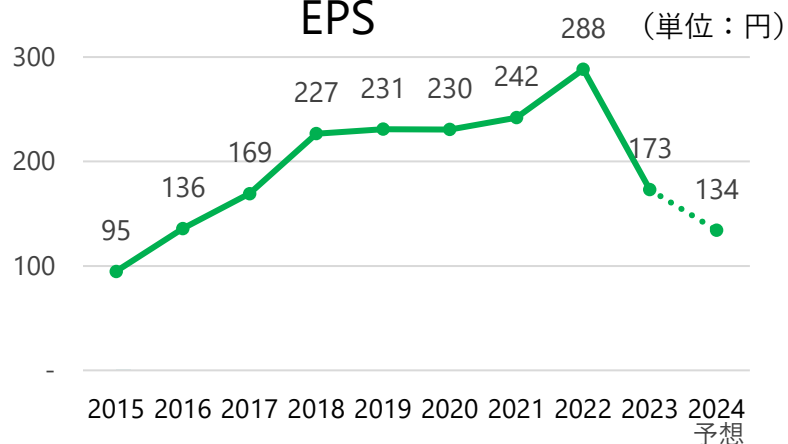
ネットDEレシオ



自己資本比率



EPS



2022年度以前も2024年1月1日付で実施した株式分割(3分割)後の数値で表示。

有利子負債



Ⅱ . 中長期経営計画の進捗

2025年度業績目標に向けた取り組み

株式会社クレハ

PVDF、PGA事業の利益の落ち込みを全既存事業および一層のコスト削減策により業績改善を図り、2025年度目標の達成を目指す。

< 具体策(重点施策) >

PVDF事業

- 欧州EV市場の落ち込みを他市場や、他のアプリケーションへの拡販策により挽回を図る
 - ・ 中国市場での大手・中堅LFP系LiBでの早期採用による拡販
 - ・ 石油掘削用途、半導体製造装置用途での拡販
 - ・ 水処理膜用途での拡販

PGA事業

- 低温・超低温鉍区での拡販と、ショート化プラグへの切り替えにより収益性の改善を図る
 - ・ 低温・超低温プラグの本格的な拡販
 - ・ 中高温向け既存プラグをショート化プラグに切り替え

その他の既存事業

- 家庭用品
 - ・ ブランド戦略および営業戦略の強化による更なる拡販
- 農薬
 - ・ メトコナゾール欧州再登録完了による需要増への対応
- 建設
 - ・ 民間建築分野における受注拡大による事業拡大
- 環境
 - ・ 低濃度PCB処理期限('27/3)に向けた需要の掘り起こし

全社での一層のコスト削減策

<生産性改善とコスト削減>

- ・ 各種製品の生産工程の見直しを通じた生産性や収率改善
- ・ ユーティリティ費用の効率化
- ・ 原燃料、資材コストの低減
- ・ 不要不急の修繕費低減

<研究開発関連費用の改善>

- ・ 施策の優先順位の見直し
- ・ 効率的な実験の実施

<間接部門でのコスト削減>

- ・ 業務の見直しによる効率化
- ・ 多能工化により、将来の費用増を抑制

「環境・エネルギー」「ライフ」「情報通信」の3分野を 重点事業分野として新製品・新規事業の開拓を推進

< 主要な新製品(農業用殺菌剤)・新規事業開発テーマの目標上市時期と目標ピーク売上収益 >

分野	開発品の名称	開発着手時期	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	売上目標 (ピーク時)		
ライフ	農業用殺菌剤	2021年度	安全性試験	各国への申請					上市	200億円以上	
	癒着防止フィルム	2017年度	非臨床試験			臨床試験			上市	100億円以上	
	バイオスティミュラント	2018年度	圃場試験			上市				100億円以上	
環境・エネルギー	SiC(炭化ケイ素)繊維	2017年度	プロトタイプ		パイロットプラント稼働					上市	100億円以上
	PFAS無害化技術	2022年度※	実地試験		上市						20億円以上
情報通信	3Dタッチパネル	2019年度		上市							70億円以上

※ Claros Technologies社との共同開発の開始時期

< ライフ分野の取り組み >

農業用殺菌剤

- ・麦類、コーン、果樹・蔬菜等を対象とする農業用殺菌剤
- ・世界各国（特に欧州）の農薬規制厳格化に対応した、安全性の高い新農薬



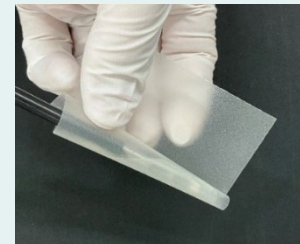
バイオスティミュラント

- 作物に作用し収量増加に貢献する技術
- 現在、日本・欧州・米国で圃場試験を実施中



癒着防止フィルム

- 手術後の癒着を防止するフィルム
- 癒着防止性・取り扱い性に優れる



< 環境・エネルギー分野の取り組み >

PFAS無害化処理

- 水中の低分子のPFASを高効率に無害化する技術
- 化学・半導体・水処理分野がメインターゲット
- 大手化学メーカーのプラントにてPFAS無害化の実証に成功



※ C社パイロット装置

SiC(炭化ケイ素)繊維

- 炭素とケイ素からなる繊維
- 軽量かつ高強度で、耐熱性に優れる
- 航空分野がメインターゲット

< 情報通信分野の取り組み >

3Dタッチパネル

- 押す強さを認識できるタッチセンサー
- 水中や手袋をしていてもタッチを検知できる
- 産業機器、医療機器、自動車がメインターゲット



CO₂排出量削減

30%以上 (2030年度目標、
13年度実績比)

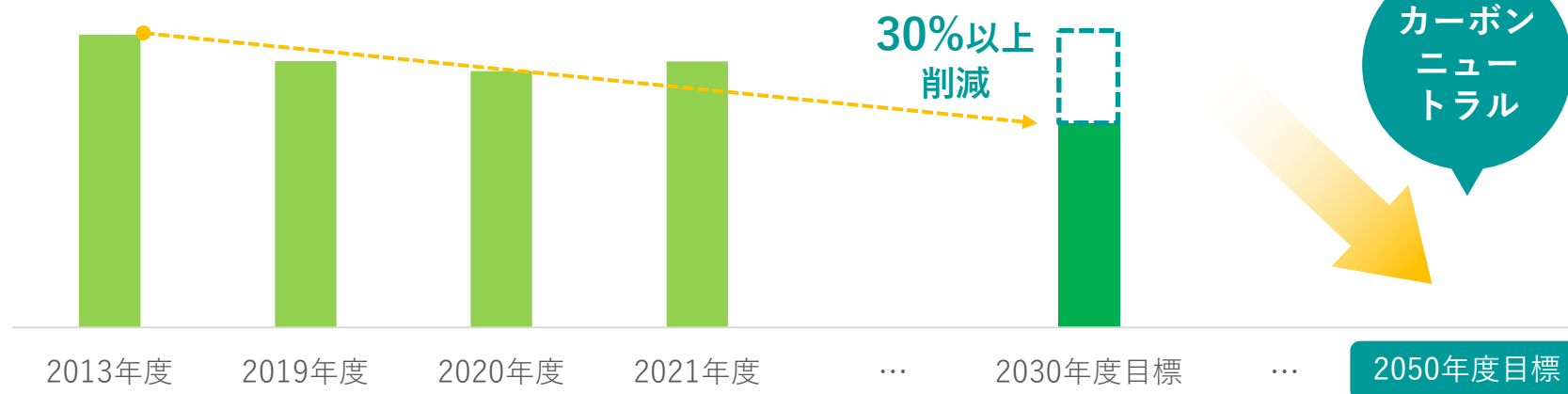
- ・いわき事業所の石炭火力発電所において、**燃料転換の技術検討**により、**2030年度目標達成へ一定の目途**がついた。
- ・**2030年度目標の確実な達成**や**目標引き上げ**に向けて、**削減手段追加の検討**を進めている。

廃棄物ゼロエミ率

1.5%以下 (2025年度廃棄物
ゼロエミ率)

- ・生産工程において発生する**廃棄物の再資源化**や**有価物化**により、最終(埋立)処分量削減を進め目標達成の見通し。
- ・更なる**廃棄物発生量の抑制**や**再資源化**を目指し、検討を進めている。

2013年度比エネルギー起源CO₂排出量



KUREHA

社員の会社への心理的なつながり(エンゲージメント)

会社を誇れる、職場の仲間が好き、日々の仕事楽しい

会社のビジョンや方針に共感できる

仕事を通じて自分が成長する機会がある

従業員が心理的なつながりを感じる価値観はさまざま

など

多様な価値観をもつ社員の一人ひとりが意欲高く働き成長することの支援を目指し、当社の現状把握のため、2023年度からエンゲージメントサーベイを開始し、その結果に基づき、以下の取り組みを実施。

経営層と 従業員の 相互理解促進

タウンホールミーティング(経営層との対話)

- ・2023年度は、経営トップとの対話や経営層との少人数型の対話を地区毎に実施。
- ・2024年度も地区毎に、経営トップとの対話に加え、日常では経営層との関わり合いが限られている若手・中堅層を中心とした少人数型の対話を予定。直接対話できる機会をより多く設定することで、経営層と従業員の相互理解の促進を図る。

エンゲージ メント 向上施策

エンゲージメント向上を目指した取り組み

- ・エンゲージメントの向上には、全社的な意識の醸成が重要であると認識し、日々のマネジメントを担うラインマネージャー層を中心に、エンゲージメントに関する説明会や向上施策を検討するワークショップを開催。
- ・エンゲージメント向上の取り組みは、結果分析と対策実行のサイクルを継続的に実施することが重要であるとの認識から、2024年度も調査を実施。

- 本資料はあくまで当社をより深くご理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- 本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要因により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- 本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。